

令和7年9月定例舞鶴市教育委員会会議録

開会日時 令和7年9月19日(金) 午後2時00分～午後2時37分

場 所 市役所別館413会議室

出席委員 廣瀬教育長 稗田委員 四方委員 小川委員 相澤委員 吉岡委員

事務局職員 山下指導理事
松岡教育振興部長
後教育未来課長
日下部学校教育課長
守屋学校教育課指導担当課長
南教育総務課長
川北教育総務課総務係長

傍 聴 2名

1 開 会

教育長 開会を宣告

2 令和7年8月定例教育委員会会議録 承認

教育長 会議録を会議に諮り、全員承認

3 諸報告

(1) 教育長報告

事務局から教育長の主な活動を報告

(2) 各課報告

(教育総務課)

- ① 行事予定について
- ② 寄附の受納について(令和7年8月)
- ③ 後援の承認について(令和7年8月)

(学校教育課)

- ① 行事予定について
- ② 教育支援センター「明日葉」・「いじめ相談室」の8月の通級・相談等の状況について
- ③ 令和7年度全国学力・学習状況調査 舞鶴市 児童・生徒の状況について

(教育未来課)

① 行事予定について

[質問・意見]

(相澤委員)

「教育支援センター「明日葉」・「いじめ相談室」の8月の通級・相談等の状況について」
スクールカウンセラーの相談状況において、8月は全くないというのは、8月にはスクールカウンセラーは学校に行っていないということか。

(守屋学校教育課指導担当課長)

そのとおり。

(相澤委員)

累計を見ても、比較的相談件数が少ないと感じる。スクールカウンセラーは小学校と中学校、どれぐらいの頻度で配置されているか。

(守屋学校教育課指導担当課長)

各学校のスクールカウンセラーは週一回勤務している。件数は、各学校、ほぼいっぱいになるぐらい活用されているような報告を受けている。この相談状況に掲載の件数は、「明日葉」に配置されているスクールカウンセラーへの相談件数。

(相澤委員)

学校配置のスクールカウンセラーへの相談における相談内容の内訳は集計しているか。スクールカウンセラーというのは各学校の中での果たす役割が大きくなってきていると感じる。内容の変化を把握していくことも必要だと考える。毎月ではなくてもいいが、数ヶ月に一度ぐらい相談件数と内容の報告をいただけたらと思う。

(守屋学校教育課指導担当課長)

学期ごとぐらいに報告できるようにする。

(吉岡委員)

行事予定にある「令和7年度第2回舞鶴市部活動地域展開推進会議」に関して、部活動地域展開はどのくらい進んでいるか。

(後教育未来課長)

今年度は、「舞鶴市部活動地域展開推進会議」の下に、三つの専門部会を設置している。各専門部会で三回ずつ部会を行い、課題の解消に向け議論を進めているところ。現在、その部会を経て、推進会議への報告をさせていただくところ。

(吉岡委員)

三つの部会というのは具体的にはどのようなものか。

(後教育未来課長)

管理運営体制のあり方等を決めていく運営体制部会、指導者の方々に参加いただいている指導部会、各中学校から保護者1名、推薦で出ている活動促進部会。

(吉岡委員)

来年度ぐらいから完全に移行することになるか。なかなか難しいところがあると思うが、子どもたち主体で進めていただければと思う。

(後教育未来課長)

来年の二学期から休日の部活動を地域の活動へと展開する予定。今年度は11月から3ヶ月間、休日の部活動を一旦停止して実証事業を行う。これまでは、野球の地域クラブを実施する場合、野球部のみ部活動を停止して実証事業を行っていたため、子どもの需要がわからなかった。今回は全ての部活動を停止し行うもので、実証事業を通じて事業の周知や種目ごとの把握を行い、指導体制の確認などを行ってまいりたい。また、実施に当たっては既存の部活だけではなく、新たにeスポーツやオンラインで漫画を描くことを教わるような、子どもがわくわくするようなメニューを整備していきたいと思っている。

(相澤委員)

「令和7年度全国学力・学習状況調査 舞鶴市 児童・生徒の状況について」

課題のところでも述べられているが、全国学力・学習状況調査結果のグラフ見せていただくPC・タブレットの活用が驚異的に伸びている一方で、「自分で考え自分から取り組む」、「自分の考えをまとめる活動を行う」というところが、特に小学校はかなり減少している。その辺りの要因はどのように分析されているか。

(守屋学校教育課指導担当課長)

タブレットは、教材を提示したり、提出物を提出したりするようなやり取りで使っているが、「まとめる」という活用の仕方に課題があるのではないかと考えている。授業の組み立て方においてその辺りに弱さがあるのではないかと思われ、今後検証を深めていく必要があると考えている。

(相澤委員)

授業を見せていただくことがよくあるが、タブレットを活用して次々と情報が提供される一方で、最終的に子どもたち自身がその情報をどう消化し、処理し、理解したことを振り返る時間が必要である。情報量が多すぎ、次々とタブレットで情報を与えられることで、子どもたちがその処理についていけない。昔のように板書をして自分で処理するという時間がなく、すぐタブレットの方に移行してしまう。アナログとデジタルの両面をどのように活用していくのが課題になってくのではないかと、グラフから見てとれる。その辺りについて、これから検討していただければと思う。

(守屋学校教育課指導担当課長)

板書とデジタルの共存が非常に難しいと感じている。学校計画訪問の際も、その状況の難しさを感じた。子どもたちは、タブレットを使ってまとめて整理することもあるが、ノートのようにいつでも見返せるかということになると、抜け落ちている部分もあると思う。タブレットの効果的な使い方について、引き続き研修を実施していく必要があると考える。

(稗田委員)

相澤委員と同感。先日の学校計画訪問の際に授業を見せていただいたとき、先生方が「自分で考えてみよう」とおっしゃるものの、1分も経たないうちに「ヒント出すよ」とタブレットを使用して次々とヒントを出されていた。自分で考えようとした子どもも、そこで思考が中断してしまい、そのヒントでわかったような気持ちになって、最後に先生の力でまとめられていくというような流れを拝見した。次々と情報が出され、子どもたちは目で見て視覚的に訴えられるため、わかった気になるが、そのことをもう一度振り返って自分の言葉で思考し、わかったことをきちんとまとめていくという段階が、欠けがちになってしまうのではないかと感じた。一度使い方を振り返ってみる必要があると思う。タブレットの活用という点では、舞鶴市は、取り組み始めてからぐんとパーセンテージが上がり、先生方の努力のおかげだと思っている。

る。さらに、アナログとの共存や、子どもたちが主体的に思考し、自分の弱かったところを言葉でまとめていくという段階に、どのように丁寧に時間をかけていくかという点がとても大切なのではないと思う。そのあたりが全国学力・学習状況調査の評価の「理解力」、「思考力」、「判断力」あたりにも関係しているのではないと思う。分析をして10月の学力充実対策会議等でも学校に提案をしていただけたらと思う。

(守屋学校教育課指導担当課長)

全国学力・学習状況調査の課題として上がっている「用語の未理解」も、わかっているようでわかってないことが多く、振り返りの部分が弱いと感じている。また、「グループで考える」ということを安易にできてしまっているのではないかと、自力解決の時間を設け、その中でわからず悩んだことをグループでの交流を通して解決していく、ということにもう少し焦点を当てる必要があるのではないかと話し合っている。10月学力充実対策会議も活用しながら進めていきたい。

(教育長)

貴重なご意見ありがたい。学力充実対策会議等を活用し、各学校の担当教員に伝えていく。

5 その他

次回の定例教育委員会は、10月17日(金)午後1時30分から開催することを確認。

6 閉 会

教育長 閉会を宣告